

《担当者名》非常勤講師 / 工藤 正尊 森川 守

【概要】

産婦人科学は、ヒトの生殖現象を主に女性の側から扱う学問である。歯科患者の50%は女性であり、女性特有の妊娠や各種の疾患を最低限理解しておくことは、女性患者の治療において必須なことといえる。そこで産婦人科学の講義は、歯科临床上で最も問題なりうる妊娠・産褥を主体に、発生・内分泌学を含めて治療上の注意点に重点をおいて行う。

【学修目標】

生殖生理の基本を理解し、女性患者を治療する際の注意点を習得する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	女性生殖器の解剖・生理	産婦人科学が対象とする女性生殖器の解剖・生理を臨床上に解説する。	工藤 正尊
2	女性の性周期 受精・着床	女性の正常性周期における性器及び性器外変化、並びに内分泌動態について解説する。 精子及び卵子の成熟と結合及び受精卵の着床過程について解説する。	工藤 正尊
3	胎芽・胎児の発育 胎盤の発育	胎児の器官形成、流産など妊娠初期の正常及び異常経過について解説するとともに、薬剤の妊娠に及ぼす影響について解説する。 胎盤の発生・構造及び機能の変化について解説する。	森川 守
4	妊娠・分娩・産褥の生理	妊娠・分娩・産褥の生理とその時期にある女性の特徴について解説する。	森川 守

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

日常の学習態度（50%）、定期試験（50%）

【学修の準備】

予習として、あらかじめ配付する資料に目を通す。（30分）

復習として、講義中疑問だった点をまとめる。（30分）

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1.人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を習得するために必要な知識を産婦人科学の観点から修得する（専門的実践能力）。

DP2.「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を産婦人科学の観点から身につける（プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力）。

DP3.疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を産婦人科学の観点から身につける（自己研鑽力）。

DP4.多職種（保健・医療・福祉）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を全部床義歯補綴学の分野で実践するために必要な知識を産婦人科学の観点から修得する（多職種が連携するチーム医療）。

DP5.歯科医療の専門家として、地域的および国際的な視野で活躍できる能力を身につけるために必要な知識を産婦人科学の観点から修得する（社会的貢献）。

【実務経験】

工藤 正尊（医師）、森川 守（医師）

【実務経験を活かした教育内容】

産婦人科医師としての実務経験を活かした講義をすることで、歯科医療の現場で役立つ知識、技術、態度の習得に寄与する教育を実践している。